

令和5年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立中之島幼稚園

教育目標 心身ともに健康で、楽しく遊ぶ子供を育てる

ゆめ	重点目標	具体的取組	取組の状況
主体的に遊ぶ子供を育てる	学びが生まれる豊かな環境を探る	豊かな環境を構成	十分に遊び込める時間や場所を確保するとともに、子供一人一人が興味や関心をもち、主体的に遊ぶような環境の工夫をする。
			身近な自然に関わり、豊かな体験ができるように、四季折々の野菜や果物を育てたり、身近な生き物に触れられるような環境を整えたりする。
			職員で子供の様子を共有し、子供の姿に合わせて、その都度環境を見直していく。
	豊かな心を育む		一人一人が安心して園生活を送り、伸び伸びと自分の気持ちや考えを表現できるようにする。
			主体的な遊びを通して、一人一人が考えたり試したりして遊ぶ中で、達成感や充実感を味わえるようにする。
			子供の育ちを保護者と共有し、同じ方向性をもち子供を育てていけるように連携を図る。
	人と関わる力を育む		思いを伝え合ったり、相手の気持ちを受け止めたりしながら、友達と気持ちを通わせる喜びを感じられるようにする。
			遊びや生活の中で、異年齢児や地域の方と触れ合い、つながりや親しみを感じられるようにする。
			小学校生活に期待をもったり、小学生に憧れや親しみをもったりできるように、小学校との交流を深め、連携を図る。
		今年度より、午前中の2時間は子供が自ら遊びを選んで自由に活動できるようにしてきた。職員同士の気づきや考えの交流や環境の見直しに力をいれて取り組んできた。	
		四季の草花を植えたり、生き物が集まるように雑草を残したり自然を取り入れる工夫をする。収穫した野菜や果物などは園で食べたり、家庭に持って帰って食べたりした。教師自ら興味を示し世話をし、成長を楽しみする気持ちを共有するようにし、子供の姿をしっかりと捉え、職員で話し合い子供たちの興味や関心が広がっていくように、また深まっていくように考え、園全体で取り組むようにしてきたが、まだまだ不十分であると考えている。	
		子供たちが、どこにいても見守られている安心感が得られるように、一人一人に寄り添い、コミュニケーションを大切に信頼関係をしっかりと築くようにしてきた	
		自分で好きな遊びを見つけ、しっかりと遊び込める時間を確保し、考えたり、試したり、工夫したりする力が育めるように環境構成を行い、満足感や充実感が感じられるようにしてきた。	
		園だよりや、クラスだより、個人懇談などを通して子供の育ちを伝えるようにしてきた。子供との信頼関係と同様に、保護者との信頼関係もしっかり築いていけるよう努めた	
		子供たちの関わりを見守り、自分なりに伝えようとする姿を受け止め共感したり、必要に応じて言葉をつけたしたり代弁したりして、自分の思いが伝わった嬉しさを、感じられるようにしてきた。	
		午前中の2時間の遊びの中で、自然と他学年の子供の姿や保育室の様子が感じられるようになってきた。職員間の連携が大切となり徹底するようになってきた。	
		ペア学年を決め、交流遊びをしたり、合同避難訓練などに取り組んできた。隣接しているため小学校を身近に感じ、刺激をうけることで、小学校を身近に感じているように思われる。	

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

園全体については『主体的に活動できる子供を育てる』では高い評価を得ており、園があげた目標とその取組を理解していることがうかがえる。しかし設問3以外は「あまりそう思わない」「思わない」「分からない」と答えた人もいる。そしてお子さま一人ひとりの設問になると、高くなっている。園としては幼稚園の教育内容や意図を保護者に伝えているつもりでも、うまく伝わっていなかったり、教育内容に違いを感じている保護者がいることもこの結果から推測できる。幼稚園では今後の学習の基盤となる「目には見えない力」を大切にしている。その見えない力について保護者にわかりやすく伝えていくことの重要性を再認識した。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

昨年度に引き続き、「主体的に遊ぶ子供を育てる」を目標に、豊かな環境の中で自ら考えたり、試したり、友達と関わったりなどの直接的な活動を大切に、意欲や自尊心、思いやり、粘り強さ、協調性などの目には見えない力が育んでいけるように取り組んできた。また午前中の2時間を園全体で自ら遊びを選んで自由に活動できるようにしたことで、子供たちは自分の好きな遊びに夢中に遊びこむことができ、満足感や達成感を感じることができたと思われる。また他学年の子供同士の関わりも増え自然といたわる気持ちや憧れの気持ちなども芽生え成長につながっていると考えるが、年齢差があるのでその場にいる教師が年齢に応じた援助をし安全面などに配慮する必要性もでてくるので、職員の連携の重要性を実感している。来年度もより子供たちがのびのび豊かな経験ができる環境を考えていくと同時に、子供の姿をしっかりと見取り職員全員が同じ方向を向いて保育していけるように努めていきたい。また保護者の思いに寄り添い、共有していけるように、クラスだよりや日々の対話を大切に取り組んでいきたいと考えている。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

「主体的に遊ぶ子供を育てる」という園での取り組みは、3年間で子供たちを随分成長させているように思われる。朝の遊び時間をたっぷり確保し自分で考え自分で選択して遊びこむ経験は、今後の子供たちの学習の土台になっていくものだと思うので今後も続けてほしい。一人一人の子供の気持ちに寄り添い、職員全員で子供の理解に取り組んでいることは大切なことであり、今後も大事にしてほしい。